

SDGs の達成に向けた取組

No.	団体名・代表者名	SDGs への具体的な取り組み	関連するゴール
記載 不要	合同会社 ERS 代表社員 吉田 絵梨沙	当社は、SDGs の理念を踏まえ、持続可能な地域社会の実現に向けた取り組みとして、昼食支援プラットフォーム「LUNCHBOX」を運営しています。 「LUNCHBOX」を通じて、沖縄県が抱える子どもの貧困、高校生世代の昼食環境の課題、共働き世帯の負担軽減、地域事業者の販路拡大、食品ロス削減などの社会課題の解決に取り組んでいます。 【目標 1：貧困をなくそう】 沖縄県は全国と比較しても子どもの貧困率やひとり親世帯の割合が高い状況にあります。 当社は、「LUNCHBOX」を通じて、すべての子どもが安心して昼食を確保できる環境づくりに取り組んでいます。 今後は寄付や支援制度の仕組みづくりを進め、地域住民や企業の支援を必要とする家庭へつなぐことで、食を通じた支援の輪を広げていきます。 【目標 2：飢餓をゼロに】 高校生世代は義務教育ではないため給食制度がなく、家庭環境によって昼食環境に格差が生じやすい状況があります。 LUNCHBOX は、誰もがスマートフォンから簡単に注文できる仕組みを提供することで、子どもたちが安定して昼食を確保できる環境づくりに取り組んでいます。 【目標 3：すべての人に健康と福祉を】 成長期の子どもにとって、規則正しい食事は健康維持や学習環境の向上に不可欠です。当社は地域の弁当事業者と連携し、栄養バランスに配慮した食事を届けることで、子どもたちの健康づくりに貢献しています。 また、保護者が昼食準備に追われることなく安心して働ける環境を整えることで、家庭全体の福祉向上にも寄与しています。 【目標 5：ジェンダー平等を実現しよう】 家庭内の食事準備は依然として女性が担う割合が高く、働く母親にとって毎日の弁当作りは大きな負担となっています。 LUNCHBOX は必要な日に昼食を確保できる選択肢を提供することで、家事負担の軽減や時間的余裕の創出につなげています。	

SDGs の達成に向けた取組

		これにより女性の就労継続やキャリア形成を支援し、家庭内の役割分担の見直しにも貢献します。 【目標 8：働きがいも経済成長も】 当社は保護者の就労を支えるだけでなく、地域の中小弁当事業者に対して新たな販路を提供しています。 事前注文による安定した需要を創出することで、売上向上や経営の安定化、生産性向上につなげています。 また、地域内で生産・消費・雇用が循環する仕組みを構築することで、持続可能な地域経済の形成を目指しています。 【目標 12：つくる責任 つかう責任】 事前注文による需要予測に基づいた製造を行うことで、過剰生産を抑制し、食品ロス削減に取り組んでいます。 弁当店にとっても効率的な仕入れや製造が可能となり、環境負荷の低減と事業効率化の両立を実現しています。 【目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう】 当社は学校、保護者、地域事業者、行政機関、支援団体等との連携を重視しています。 実証事業や意見交換を通じて地域課題を共有し、多様な主体が協力して子どもたちを支える仕組みづくりを進めています。 今後も地域に根差したパートナーシップを拡大し、沖縄県における持続可能な食支援モデルの構築を目指します。 普及に向けた予定している具体的な取組 当社は、おきなわ SDGs パートナー登録後、事業活動と情報発信の両面から SDGs の普及啓発に取り組めます。 まず、当社が運営する LUNCHBOX のホームページ、SNS（Instagram、LINE 公式アカウント等）、会社案内資料、営業資料、プレゼンテーション資料等において、おきなわ SDGs パートナーロゴマークを積極的に活用し、利用者や関係者へ SDGs への取組を分かりやすく発信します。 また、学校関係者、保護者、地域事業者に対する事業説明や導入提案の際には、	
--	--	---	--

SDGs の達成に向けた取組

	LUNCHBOX が「子どもの貧困対策」「健康的な食環境の提供」「女性活躍推進」「地域事業者支援」「食品ロス削減」など、複数の SDGs 目標の達成に貢献する取組であることを紹介し、SDGs への理解促進を図ります。 さらに、教育機関や学童保育施設、フリースクール等との連携を進める中で、地域全体で子どもたちの食を支えることの重要性を発信し、SDGs を身近な課題として考える機会の創出に取り組みます。 保護者や生徒に対しても、地域の弁当事業者を利用することが地域経済の活性化や食品ロス削減につながることを伝え、持続可能な消費行動の促進を図ります。 加えて、新聞、テレビ、インターネットメディア等を活用した情報発信や、講演会・セミナー・地域イベント等への参加を通じて、沖縄県が抱える子どもの貧困や共働き世帯の負担、高校生世代の昼食環境といった社会課題を広く発信し、SDGs の理念である「誰一人取り残さない社会」の実現に向けた機運醸成に努めます。 今後は、企業や団体との連携による寄付・支援ポイントの仕組みづくりも検討しており、地域全体で子どもたちを支える共助の取組を広げていく予定です。 こうした活動を通じて、SDGs を特別なものではなく、地域の日常生活や事業活動の中で実践できる取組として普及させることを目指します。 当社は、おきなわ SDGs パートナーとしての責任を自覚し、地域の多様な主体と連携しながら、SDGs の普及啓発と持続可能な地域社会の実現に継続的に取り組んでまいります。	
--	--	--

SDGs の達成に向けた取組

No.	団体名・代表者名	SDGs への具体的な取り組み	関連するゴール
記載 不要	株式会社 EAGLE 代表取締役 池原 恭兵	株式会社 EAGLE が運営する「イケモバ」では、スマートフォン修理・買取・販売事業を通じて、使われなくなったスマートフォンを修理・整備し、必要としている家庭へ届ける社会貢献活動に取り組んでいます。本取り組みは、地域課題の解決と資源の有効活用を両立する、当社における SDGs 推進の一環です。 主な活動として、沖縄県内のひとり親家庭を対象に「スマホを通じてひとり親家庭を応援プロジェクト」を継続開催しています。本プロジェクトでは、再活用可能なスマートフォンや地域の皆さまから提供いただいた端末を点検・整備し、ひとり親家庭の子どもたちへ無償で提供しています。これまでに 5 回開催し、累計約 500 台のスマートフォンを届けてきました。 スマートフォンは、子どもたちの学習、情報収集、家族や学校との連絡、災害時の連絡手段として欠かせない道具です。一方で、家庭環境によっては子ども専用の端末を用意することが難しく、デジタル環境の差が学びや情報へのアクセスの差につながる場合があります。当社では、本業で培った修理・整備の技術を活かし、安心して使える一台として届けることで、子どもたちの暮らしと未来を支えたいと考えています。 また、不要になったスマートフォンを廃棄せず再活用することで、資源の有効活用や電子廃棄物の削減にもつなげています。今後は、企業・団体・個人の皆さまと連携し、端末提供、協賛、情報拡散などを通じて、地域全体で支援の輪を広げてまいります。 【貧困をなくそう】 ・沖縄県内のひとり親家庭へスマートフォンを無償提供し、家庭の経済的負担の軽減に取り組んでいます。 【すべての人に健康と福祉を】 ・スマートフォンを通じて、家族や学校、地域との連絡、緊急時の情報取得を支え、日常の安心につながる環境づくりに取り組んでいます。 【質の高い教育をみんなに】	

SDGs の達成に向けた取組

- ・子どもたちの学習、情報収集、オンライン手続きなどに必要な端末を届け、学びへのアクセスを支援しています。

【エネルギーをみんなに そしてクリーンに】

- ・社内資料や業務管理のデジタル化、店舗での節電など、日常業務の中で省エネルギーを意識した運営に努めています。

【働きがいも経済成長も】

- ・沖縄県内で店舗を展開し、地域雇用の創出と、若い世代が修理・買取・接客・店舗運営を学び成長できる職場づくりに取り組んでいます。

【産業と技術革新の基盤をつくろう】

- ・スマートフォン修理技術の向上に努め、故障した端末を修理して使い続ける選択肢を提供し、地域の修理・再生インフラの一部を担っています。

【つくる責任 つかう責任】

- ・不要端末の買取、修理、再販売、寄付活用を通じてリユースを促進し、資源を大切に使う循環型の取り組みを進めています。

普及に向けた予定している具体的な取組

SDGs の普及に向けた今後の具体的な取り組みとして、株式会社 EAGLE が運営する「イケモバ」では、2026 年 6 月 28 日に「第 6 回 スマホを通じてひとり親家庭を応援プロジェクト」を開催予定です。当日は、沖縄県内のひとり親家庭を対象に、総額 100 万円分となる iPhone100 台を無償で配布いたします。

今回の取り組みでは、端末を配布するだけでなく、地域の皆さまに SDGs をより身近に感じていただく機会として位置づけています。会場では、スマートフォンの再活用がひとり親家庭の支援や資源の有効活用につながることを伝え、来場者や関係者に対して、不要になった端末を「捨てる」のではなく「必要な人へつなぐ」という選択肢を知っていただけるよう取り組みます。

また、開催にあわせて、自社サイト、SNS、プレスリリースを活用し、イベントの概要だけでなく、支援に参加できる方法も発信していきます。具体的には、使わなくなったスマートフォンの提供、協賛、情報拡散など、企業・団体・個人がそれぞれの形で参加できることを案内し、SDGs を特別な活動ではなく、日常の中で取

SDGs の達成に向けた取組

	り組める行動として広げていきます。 さらに、イベント後も当日の様子や実施結果を自社サイトや SNS で発信し、支援を受けた家庭や地域の反応、今後の課題などを共有していく予定です。単発の開催で終わらせるのではなく、活動の過程や成果を見える形で発信することで、地域の皆さまが継続的に関心を持ち、次回以降の支援や参加につながる流れをつくっていきます。 店舗においても、那覇・浦添・沖縄市・宮古島・石垣島の各拠点で、来客スペースへの案内掲示やスタッフによる声かけを行い、スマートフォンのリユースや寄付、修理して長く使うことの意義を伝えていきます。スマートフォンに関する相談で来店されたお客様に対しても、身近な端末の使い方や手放し方が、地域支援や環境配慮につながることを知っていただく機会をつくります。 今後は、第 6 回プロジェクトをきっかけに、協賛企業、地域団体、メディア、個人の皆さまとの連携を広げ、沖縄県内で SDGs に参加する機運を高めていきます。イケモバは、地域に根ざしたスマートフォン事業者として、事業活動を通じてできる具体的な SDGs アクションを継続し、より多くの方が支援の輪に加われる仕組みづくりを進めてまいります。	
--	---	--

SDGs の達成に向けた取組

No.	団体名・代表者名	SDGs への具体的な取り組み	関連するゴール
記載 不要	有限会社 伊世開発 代表取締役 大城 奈津紀	当社は、土木工事を主に地域インフラの整備を通じて安全・安心なまちづくりを行っています。より良い品質で環境によいものづくりを基本に環境保全に取り組んでいます。 SDGs の取組方針として、事業活動を通じた地域社会への貢献、環境負荷の低減、人材育成及び働きやすい職場環境づくりを推進し、持続可能な社会の実現に取り組めます。 【経済】 * ISO9001 に基づく品質マネジメントを運用し、品質の向上に取り組んでいる。 * 資格取得や技能講習の受講を支援し、人材育成に取り組んでいる。 * 地域インフラの整備を通じて、安全・安心なまちづくりに貢献している。 【社会】 * 性別にかかわらず能力や適性を重視した採用・配置を行い、多様な人材が活躍できる職場環境づくりを推進している。 * 安全教育、安全パトロール、定期健康診断を実施し、安全で安心して働ける職場環境づくりに取り組んでいる。 * 週休 2 日制を導入し、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいる。 * 地域の清掃ボランティア活動へ継続的に参加し、地域社会への貢献に取り組んでいる。 【環境】 * ISO14001 に基づく環境マネジメントを運用している。 * 建設廃棄物の分別・適正処理・リサイクルを徹底している。 * 資源の有効活用を目的として、両面印刷や裏紙の再利用、再生紙などのリサイクル製品の利用を推進している。 普及に向けた予定している具体的な取組 おきなわ SDGs パートナー登録後は、ホームページに SDGs の取組を掲載するとともに、おきなわ SDGs パートナーロゴマークをホームページや会社案内等に活用し、当社の取組を広く発信します。また、来客スペースへの SDGs ポスターの掲示などを通じて来訪者への周知を図り、SDGs への理解促進に努めます。 さらに、環境保全活動や地域清掃活動、人材育成、安全への取組を継続するとともに、その活動内容を定期的に発信することで、地域や取引先と連携しながら持続可能な地域社会の実現に貢献します。	

SDGs の達成に向けた取組

No.	団体名・代表者名	SDGs への具体的な取り組み	関連するゴール
記載不要	エクラホーム株式会社 代表取締役 諸見里 真	住宅は人生の中で最も大きな買い物の一つです。 そして住宅は単なる建物ではなく、家族の暮らしや人生を支える大切な基盤でもあります。 エクラホーム株式会社としては、安心して長く住み続けられる住まいづくりを通じて、 沖縄の住環境をより良いものにしていきたいと考え、以下の SDGs に取り組んでまいります。 ■すべての人に健康と福祉を ● 総務にて全社員の定期健康診断の一括予約を行うことで、健診受診率 100%達成。 ● 一年に一度は保健士の方と個人面談を行い、自身の健康状態を確認。 ● SPORTS TOWN WALKER アプリに全社員登録し、日々の歩数をチェック。 ● 『健康経営優良法人(中小規模法人部門)』の 2025～2026 年度の 2 年連続認定を頂きました。 ■ジェンダー平等を実現しよう ● 未経験でも意欲重視した採用を行い、女性現場監督や女性管理者を増やす為の育成を積極的に進めています。 ● 全社員が育児休業・介護休業制度を取得しやすい環境づくり。 ● 性別ではなく実績や能力で評価する。 ● 誰でも働きやすい現場づくり。 ■エネルギーをみんなに そしてクリーンに ● ZEH水準の住宅を全てのお客様に提供していきます。 ● 現場での廃材処理を見直しゴミ排出量の削減を進めるよう取り組んでいます。 ● 社内電球をLED照明へ切り替え。 ● ガソリン消費を抑え、二酸化炭素の排出量を減らせる車種を社有車として採用。 ■働きがいも経済成長も ● 週休 2 日制の推進や残業時間の削減に取り組んでいます。 ● 性別や年齢に関係なく、公平な評価・昇進制度を整える。 ● 社員の資格取得について支援。 ■住み続けられるまちづくりを	

SDGs の達成に向けた取組

	●地域の防災訓練や災害協定への参加を積極的に取り組んでいます。 ●建設廃材の分別・リサイクルを推進。 ●騒音・振動・粉じん対策を徹底し、周辺環境への影響を低減する。 ●建設現場周辺の清掃活動や環境美化活動の実施。 ■ つくる責任 つかう責任 ●資源リサイクルや県内ボランティア団体への寄付を通じて、地域社会への貢献を行っています。 ●建設廃材を適切に分別し、リサイクルを推進。 ●適切な施工計画により資材ロスを減らす。 ●コピー用紙の使用量削減や電子化（ペーパーレス）を進める。 普及に向けた予定している具体的な取組 おきなわ SDGs パートナーロゴマークの使用による発信。	
--	--	--

SDGs の達成に向けた取組

No.	団体名・代表者名	SDGs への具体的な取り組み	関連するゴール
記載 不要	株式会社沖縄エジソン 代表取締役 安次嶺 之治	当社は、創業から50有余年、情報・通信・カスタマーサービスをトータルにサポートするIT企業です。「うちなーIT」をキーワードに地元で貢献できる企業を目指し、SDGsの取り組み方針として以下の取り組みを行っています。 【社員の健康と多様な働き方の提供】 ■ 健康経営の推進 ・従業員とその家族の健康維持・増進を支援 (SDGs 目標3「すべての人に健康と福祉を」) ・各認証取得 健康経営優良法人(中小規模法人部門)2025・かえるジャパン・スポーツエールカンパニー2026 ■ Woman ちゅ応援宣言 ・女性が働きやすい職場環境の整備 ・性別に関わらず活躍できる組織づくりの推進 (SDGs 目標5「ジェンダー平等を実現しよう」) 【地域支援活動の推進】 ■ 沖縄こども未来プロジェクトへの参画 ・こどもの学びや生活を支える支援活動 ・地域の未来を担う人材育成への貢献 (SDGs 目標1・4) ■ 子ども110番の家への参加 ・地域の子どもが安心して助けを求められる環境づくり ・地域と連携した防犯・見守り活動の実施 (SDGs 目標11「住み続けられるまちづくりを」) ■ 団体献血の実施 ・社員参加による定期的な献血活動 ・地域医療の安定的な血液供給に貢献 (SDGs 目標3) 【環境への取組】	

SDGs の達成に向けた取組

	■ビーチクリーン活動・地域清掃活動 ・定期的な海岸清掃・地域清掃による自然環境の保全 ・海洋ごみ問題への意識向上 (SDGs 目標 14「海の豊かさを守ろう」) 【経済への取組】 ■働きがいのある職場づくり ・定時退勤日の設定 ・休暇の取得推進 (SDGs 目標 8「働きがいも経済成長も」) ■人財育成への投資 ・積極的なセミナーの受講 ・資格取得支援 (SDGs 目標 4「質の高い教育をみんなに」) 普及に向けた予定している具体的な取組 ・ビーチクリーン活動・地域清掃活動：年3回開催し、回収量や参加人数を KPI として管理。 ・団体献血：年1回、赤十字血液センターを招致し、社員と地域住民の参加を促進。 ・健康経営推進：健康診断の結果を活用し、重点施策と数値目標を設定。健康増進イベントやサークル活動の推進、育児・介護・病気と仕事の両立支援、人財育成による支援体制の強化を通じ、日常的な食生活の改善や運動習慣の促進を含めた、継続的な健康づくりに取り組みます。 ・沖縄こども未来プロジェクト：継続的な寄付活動を通して、教育機会の拡充を支援。 年に1回活動レポートを作成し、Web サイトや「おきなわ SDGs パートナーズ」などを通じて社内外へ公開することで、取り組みの認知度を高め、さらなる活動の拡充につなげていきます。これらの取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献します。	
--	--	--

SDGs の達成に向けた取組

No.	団体名・代表者名	SDGs への具体的な取り組み	関連するゴール
記載 不要	公益社団法人 沖縄県緑化推進委員会 理事長 上里 均	公益社団法人沖縄県緑化推進は、県民参加による緑化活動の推進及び森林・自然環境の保全を目的として設立された法人です。 県民の皆様から集めた「緑の募金」を活用し、植樹活動、学校緑化、緑の少年団の育成、地域緑化活動支援等を実施し、地域住民やボランティア団体及び行政機関とも連携することで SDGs の持続可能な地域づくりと緑豊かな美ら島おきなわの実現に取り組んでいます。 【経済】 ①企業や地域団体とのパートナーシップによる植樹活動や花壇整備活動を実施し、地域の魅力向上や観光振興に寄与しています。 ②SDGs の取り組みとして福祉施設で生産した県産花苗を活用し、地域産業の振興と環境美化を両立しています。 ③道路ボランティアや河川愛護会等の支援活動を行い、SDGs の地域資源を活用した持続可能なまちづくりを推進しています。 【社会】 ①学校緑化コンクールや緑の少年団活動を通じて、子供たちへの環境教育及び人材育成に取り組んでいます。 ②企業、自治会及びボランティア団体と連携し、緑化活動を実施することで、世代間交流や地域コミュニティの活性化に取り組んでいます。 ③高齢者、児童など地域住民が参加できる緑化活動を通じて多様な主体によるまちづくりを推進しています。 【環境】 ①緑の募金を活用した SDGs の取り組みとして植樹活動や森林整備を実施し、森林資源の保全と循環型社会の形成に取り組んでいます。 ②道路、公園等の公共空間における緑化活動を推進し、快適な生活環境と良好な景観形成に取り組んでいます。 ③フクギ並木や地域の自然環境保全活動を支援し、SDGs の生物多様性の保全及び自然共生社会の実現を目指しています。 ④植樹及び森林整備による CO2 吸収源の確保を推進し、気候変動の緩和に貢献しています。	 The image shows six SDG icons arranged in a 2x3 grid. The top row contains icons for Goal 3 (Health and Well-being), Goal 8 (Economic Growth), and Goal 11 (Sustainable Cities and Communities). The bottom row contains icons for Goal 13 (Climate Action), Goal 15 (Life on Land), and Goal 17 (Partnerships for the Goals).

SDGs の達成に向けた取組

		普及に向けた予定している具体的な取組 ・緑化推進委員会のホームページや広報誌に SDG s ロゴ及びゴールアイコンを掲載し、緑化活動と SDG s の関連性を分かりやすく発信する。 ・花配布事業において、SDG s 普及啓発パネルやステッカーを活用した情報発信を行う。 ・道路美化ユイマール企業制度への登録企業を拡大し、企業と地域が連携した SDG s 活動を推進する。 ・おきなわ SDG s パートナーロゴを活用し、県民への認知度向上と SDG s の普及啓発を推進する。 ・「誰一人取り残さない持続可能な美ら島おきなわ」の実現に向け、多様な主体との連携による緑化活動を展開する。	
--	--	---	--

SDGs の達成に向けた取組

No.	団体名・代表者名	SDGs への具体的な取り組み	関連するゴール
記載 不要	株式会社 OPPL 代表取締役 祝嶺 陽子	株式会社 OPPL は、沖縄県那覇市を拠点とするバイオテクノロジー企業です。遺伝子組換えカイコを活用した最先端の研究開発を核に、「バイオサイエンス事業」と「アップサイクル事業」を展開しています。 SDGs の取組方針として、「研究成果を無駄にしない循環型ものづくり」と「地域・教育・産業との連携による持続可能な社会づくり」を推進し、環境・社会・経済の3つの側面から SDGs 達成に貢献することを目指しています。 1. 性の多様性と働きがいのある職場づくり（SDGs 目標 5・目標 8） 当社は、従業員の約 7 割を女性が占め、代表取締役も女性が務めています。性別や役職に関係なく、一人ひとりが能力を発揮できる職場づくりを推進しています。また、安全・安心で充実感を持って働くことができる労働環境の整備を目的に、一部フレックスタイム制を導入し、多様な働き方を支援しています。プロジェクト運営においては、男女や役職に関係なく意見交換を行い、社員一人ひとりが主体的に活躍できる組織づくりに取り組んでいます。 2. 保健・福祉と最先端医療への貢献（SDGs 目標 3） 当社は、バイオサイエンス事業として、遺伝子組換えカイコを活用した感染症研究や組換えタンパク質の開発を行っています。感染症に対する検査試薬原料の開発やタンパク質生産技術の研究を通じて、医療・ライフサイエンス分野の発展に貢献するとともに、人々の健康と福祉の向上を目指しています。 3. 研究成果を無駄にしないアップサイクル事業（SDGs 目標 12） 当社の最大の特徴は、カイコを用いた医薬品原料やタンパク質生産の研究過程で生まれる副産物である「繭」を廃棄することなく、有効資源として再活用していることです。研究成果を活かしたアップサイクル事業として、シルク由来成分を配合した化粧品やペットケア製品を企画・開発・製造・販売しています。製品は、石油系界面活性剤・パラベン・鉱物油・合成着色料・合成香料などを使用しない処方を採用し、人にも環境にも配慮した製品づくりを行っています。研究開発から生まれた未利用資源に新たな価値を創出することで、循環型社会の実現に貢献しています。 4. 産学官連携による技術革新と地域活性化（SDGs 目標 9・目標 17）	

SDGs の達成に向けた取組

	当社は、大学や研究機関、企業、行政との共同研究・共同開発を積極的に推進しています。 また、沖縄県内企業である「ゆめじん有限会社」と共同で、県産植物素材とカイコ由来成分を融合した製品開発を行うなど、地域資源を活用した新たな価値創出に取り組んでいます。 今後も産学官連携を強化し、沖縄発のバイオテクノロジーによる持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。 5. 陸の豊かさを守ろう（SDGs 目標 15） 当社は陸上生物資源である「カイコ」を活用した研究開発を行っています。その研究で発生する未利用繭を廃棄せず資源として有効活用することで廃棄物削減を図るとともに、天然由来原料を活用した製品開発を推進しています。 また、桑・カイコ資源を活用した持続可能な地域循環型産業の構築に取り組み、生物資源の有効利用と環境保全に貢献しています 普及に向けた予定している具体的な取組 組換えカイコ技術を活用したバイオ農薬の開発に取り組む（開発事業：R8 年 7 月～R10 年 2 月）。これにより、 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう 目標 15：陸の豊かさを守ろう の達成を目指す。	
--	--	--

SDGs の達成に向けた取組

No.	団体名・代表者名	SDGs への具体的な取り組み	関連するゴール
記載 不要	SHINY DANCE ACADEMY 代表理事 北島 憲一朗	ダンスインストラクターという仕事を確固たる報酬が受け取れる職業にし、質の高い指導を通しダンスの普及に貢献し、好循環で持続可能な業界に変えていくよう、全国の各地域のインストラクターと開校を進めていっております。 スクール開校、日々のレッスンと地域の各コミュニティとの関わりによって「健康」「教育」「地域」「連携」という流れに繋がり、SDGs ゴール 3、4、11、17 における取り組みを以下のように行っております。 【SDGs ゴール番号 3】 ダンスを通じた運動習慣、心身の健康づくりの環境を提供します。 ★各スクール年間 43 回のレッスン ★ストレッチ実施率 100% ★生徒継続率 85%以上 ★重大事故 0 件継続 【SDGs ゴール番号 4】 質の高い教育で子どもの特性を理解した専門の講師が楽しく丁寧に基礎からレッスンします。 ★初心者受け入れ率 100% ★生徒継続率 85%以上 ★年 2 回の発表会実施 【SDGs ゴール番号 11】 住み続けられるまちづくりは全国に 118 校を展開し更に全国各都市のインストラクターと地域に密着したスクールを開校中です。 ★地域イベント参加年 20 回以上、ホームページや SNS で地域活動を発信 ★地域協力団体 10 団体以上 ★重大事故 0 件継続 【SDGs ゴール番号 17】 各地のインストラクターとパートナーシップを結び開校を進めています。 ★フランチャイズスクール 89 校の開校（2026 年 7 月現在） ★新規連携先 3 団体以上/年 ★地域協力団体 10 団体以上	 3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナリシップで目標を達成しよう

SDGs の達成に向けた取組

★活動発信 55 回（2025 年度実績）

沖縄県では S.D.A 北谷スクール（沖縄県中頭郡北谷町北前）を 4 月に開校してダンスレッスンを通じて記述のゴール達成に向けて活動を行っております。

<https://www.shinydanceacademy.jp/17715671494219>

普及に向けた予定している具体的な取組

質の高い教育で子どもの特性を理解した講師が基礎からレッスンし、全国に 118 校を展開し各都市に地域密着のスクールを開校中です。各地のインストラクターと継続してパートナーシップを結び開校を進めていきます。

【目標年次及び数値目標】

■2030 年までに沖縄県内 10 市町のエリアに開校

■上記に伴い 600 世帯が S.D.A スクールに在籍

※取組内容に伴う SDGs ゴール 3、4、11、17 の取り組み

【ゴール 3：ダンスを通じた運動習慣、心身の健康づくり】

「ダンスを通じ心も体もいきいきと」心身の健康づくり促進に取り組んでまいります。

■楽しく運動習慣をつくり、心と体の健康を育む

■ストレッチ・ウォーミングアップの実施

■一人一人に寄り添った指導

■安全・安心なレッスン環境

【ゴール 4：一人ひとりの成長、自己肯定感、協調性を育む教育】

「踊りを学ぶ場」だけでなく「人として成長する学びの場」と考えて日々の活動を行ってまいります。

■初心者でも安心して通える/体験アンケートの実施

■年齢、学年によるクラス編成

■一人ひとりの努力を認める声かけ

■定期的な発表会/成長を実感できる機会と環境

【ゴール 11：地域イベントへの参加、地域交流、地域活性化への貢献】

日本各地で地域のイベントに参加し、ダンスで地域と繋がり地域活性化、住み続けられるまちづくりの貢献に尽くしていきます。

SDGs の達成に向けた取組

	■ダンスを通じて地域に笑顔と活気を届けます ■自治体や地域団体と協力し、交流の輪を広げます ■子どもから大人まで一緒に楽しめる機会をつくります 【ゴール 17：地域・企業・自治体・保護者との連携による持続可能な活動】 人と人・地域・企業がダンスで交わり、各地域のダンスインストラクターや企業とのパートナーシップにより地域密着型のダンススクールを開校し、ダンスで繋がる未来を創造していきます。 ■各地域のインストラクターによるスクールの開校 ■商業施設・自治体・地域団体と連携したイベント出演 ■ダンスを通じて子ども・保護者・地域をつなぎます ■学年や学校を超えた交流機会の提供	
--	--	--

SDGs の達成に向けた取組

No.	団体名・代表者名	SDGs への具体的な取り組み	関連するゴール
記載 不要	水 ingAM 株式会社 沖 縄営業所 沖縄営業所長 吉川 太一	当社は、『水』を通じていつまでも社会に貢献し続ける企業であることを企業理念に、長年培ってきた経験・技術を生かした『水』に関するトータルマネジメントにより、自然の循環システムを健全に維持する事業を展開しています。また、当社は全国に 300 箇所の維持管理拠点（沖縄県内 5 箇所）、3,000 人のフィールド・エンジニア（沖縄県内に約 30 名）を配置しており、このネットワークを活用し、これから『水の先をつくれ』をスローガンに、水だけでなく地域の皆様と一緒に住みよい社会の形成に寄与します。 当社グループは 50 年以上も前より国内外における水インフラの建設・管理を通じて社会貢献を行っており、『持続可能な社会』の実現を社会課題と位置づけたアクションプランを構築し、SDGs と結び付けた活動を行っています。 具体的活動 【3. すべての人に健康と福祉を】【6. 安全な水とトイレを世界中に】について ◇都市、過疎地域などの地域の特性や課題に合わせた、最適な浄水・下水処理インフラの継続に向け、運転・維持管理の継続的推進を行っている。 ◇環境負荷を低減し、且つ効率や経済性の改善を図るための、維持管理技術の開発推進を行っている。 ◇良質な水道水を安全かつ安定的に供給するために施設の運転管理・保守管理を行っている。 【8. 働きがいも経済成長も】について ◇労働環境の最適化（労働時間管理・就業環境改善・安全管理）に向けた運用を日常的に検討・実施している。 【11. 住み続けられるまちづくりを】について ◇激甚災害を見据えた施設整備や運転維持管理を提案し、災害時の対応や復旧支援の準備を推進している。 ◇水処理施設全体での最適化提案のみならず、施設の枠を超えた都市圏や過疎地域を含めた広域視点で最適なインフラ提案を実施していく。 ◇包括委託契約や DX による、水インフラの周辺施設も含めたトータル運営コストの効率化を推進していく。 ◇水 ing グループ全体で、レジリエントで維持可能な都市及び人間居住を意識し	

SDGs の達成に向けた取組

		た水 ing 流街づくりのための新規事業開発を推進していく。 【12. つくる責任 使う責任】について ◇下水汚泥の削減や再利用に繋がる下水汚泥からのリン回収、バイオガス回収の案件開発を進めると共に、この推進を図るために製品製造・販売を含めたバリューチェーンの構築を目指している。 ◇水インフラの廃棄物（上水汚泥、下水汚泥等）からの未利用資源の回収に関する技術開発に取り組む。 【13. 気候変動に具体的な対策を】について ◇水 ing グループの事業における Scope1, 2 の排出量を把握し、みえる化を進めていく。 ◇水 ing グループ全員の意識や知識レベルを向上するための教育や広報活動を実施している。 【共通事項】 ◇「SDGs de 地方創生カードゲーム」を全国事業所において実施し、ゲームを通じて SDGs の理解を深める活動を実施している。 ◇SDGs 基礎研修、応用研修、対話研修等の企画実施により、SDGs が日常化するように活動を行っている。 ◇SDGs が身近になるよう、SamDGs ラジオの配信により意識の定着を図っている。 普及に向けた予定している具体的な取組 ◇沖縄県出身者の雇用推進に関連し、当社の SDGs 活動を採用に関する企業説明に組み込み、学生に対して SDGs の普及促進を行う。 ◇環境活動（年 4 回の海岸・地域清掃）への参加を積極的参加イベントとして位置づけ、SDGs ロゴ入りビブスの使用による SDGs 認知活動を行う。 ◇学生への SDGs 認知活動に向け、環境教育イベントとしての出前事業の提案を、県下の中学校・高校に向け企画・交渉を行う。 ◇安全・安心な水道水提供、下水道および尿処理の安定運用を行いつつ、自治体が企画する施設見学へのタイアップを提案し、広く SDGs の認知活動へ繋げる。	
--	--	---	--

SDGs の達成に向けた取組

No.	団体名・代表者名	SDGs への具体的な取り組み	関連するゴール
記載 不要	那覇鋼材株式会社 代表取締役社長 上原 勉	当社は、鋼材・建設資材の総合商社として、鋼材販売、鉄筋加工、アルミ製品の製造・販売等を通じて、地域のインフラ整備や産業振興に貢献しています。SDGs の取組方針として、鋼材・建設資材の販売を通じて環境・社会・経済の課題解決に取り組み、地域社会とともに持続可能な成長を目指します。 3. すべての人に健康と福祉を 健康診断受診の推進やスポーツジム利用支援を実施し、働きやすい職場環境づくりを通じた従業員の心身の健康維持に努めています。 5. ジェンダー平等を実現しよう 女性従業員の定着率向上に努めるとともに、育児休業からの復帰支援を行っています。また、男性従業員の育児休業取得促進や育児・介護休業制度、看護休暇制度を整備し、仕事と家庭を両立できる職場環境づくりを進めています。 8. 働きがいも経済成長も 地元出身者や高卒・専門学校卒業者、社会人経験者の積極採用を行い、地域雇用の創出に取り組んでいます。また、従業員一人ひとりが能力を発揮できる職場環境づくりを通じて、地域経済の発展に貢献しています。 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 仮設開口部補強ユニット「セルボン」など、建設現場の省力化、施工品質の安定化、資材ロス削減につながる製品を提供しています。また、DX 推進による業務効率化や生産性向上にも取り組んでいます。 10. 人や国の不平等をなくそう 障がいのある方の働く場づくりとして、花壇管理等の業務を通じた就労機会の提供を行っています。多様な人材が活躍できる環境づくりを通じ、持続可能な地域社会の実現を目指しています。 12. つくる責任つかう責任・13. 気候変動に具体的な対策を 省エネルギーや環境負荷低減につながる鋼材・アルミ製品の提案・販売を行っています。建設現場における資材ロス削減につながる製品の提供に加え、リサイクル可能なアルミ製品の活用を推進することで、資源循環と廃棄物削減に取り組んでいます。 普及に向けた予定している具体的な取組 ・社内で書類の電子化やクラウドサービスを活用した情報共有に取り組み、紙使用量の削減によるペーパーレス化を推進してまいります。	

SDGs の達成に向けた取組

No.	団体名・代表者名	SDGs への具体的な取り組み	関連するゴール
記載 不要	有限会社 大和緑建 代表取締役 仲本 義武	私たち(有)大和緑建は地域と共に未来を築き土木工事・造園工事を通じて地元の発展に貢献するだけでなく、環境や地域、働く人を大切にする事を目標に SDGs の達成に向け日々取り組んでいます。 ①環境への配慮（目標 12. 13. 15） ・各現場での建設発生土やコンクリート・アスファルトのリサイクル ・低燃費、低排出ガス型建設機械の使用 ・散水による粉塵対策 ・騒音、振動を抑えた施工 ・クラウドを活用した業務の効率化 ②安全・健康（目標 3. 8） ・各現場での毎日の KY（危険予知）活動 ・熱中症対策（空調服、WBGT 計測、休憩所の設置） ・現場パトロールによる事故未然防止 ・生活習慣予防検診の受診率 100%とうちな一健康経営宣言に登録 ③地域との共生（目標 11） ・工事前の近隣住民への説明会 ・地域清掃や防災活動に参加 ④教育・人材育成（目標 4. 8） ・地域住民や子供たちを対象とした現場見学会の実施 ・技能講習や資格取得費用の一部負担 普及に向けた予定している具体的な取組 ・名刺や自社ホームページ等にパートナーロゴマークを入れて普及に取り組む。 ・地域清掃やボランティア活動に継続的に参加し、地域住民と一緒に環境保全に取り組む。	 The image shows a collection of SDG icons arranged in a grid. The icons are for goals 3 (Good Health and Well-being), 4 (Quality Education), 8 (Decent Work and Economic Growth), 11 (Sustainable Cities and Communities), 12 (Responsible Consumption and Production), 13 (Climate Action), and 15 (Life on Land). Each icon is in a colored square with a white symbol and the goal number and name in Japanese.

SDGs の達成に向けた取組

No.	団体名・代表者名	SDGs への具体的な取り組み	関連するゴール
記載 不要	琉球開発株式会社 代表取締役 岸本 本眞	私たち琉球開発株式会社は、道づくりを通して「地域・人・環境」との調和を図り、安全・技術・品質を大切に、地域の皆様の信頼に応える企業を目指して事業活動を行っています。 社会インフラの整備事業を行う中で、持続可能な社会に貢献できる活動について考え、以下の SDGs に取り組んでいます。 【3. すべての人に健康と福祉を】 - 従業員の定期健康診断について、30 歳以上の方は会社で費用の補助を行い、生活習慣病健診、人間ドックの受診を推奨しております。 - また、従業員の家族の方についても、人間ドックの受診を推奨しており、病院の予約や補助金の申請をサポートしています。 - 感染症対策として、インフルエンザの予防接種を年に一度社内で受診できるように病院と連携を取っています。 - メンタルヘルス対策として、年一回ストレスチェックを実施し、従業員の心の健康づくりに取り組んでいます。 【4. 質の高い教育をみんなに】 - 従業員の能力向上のため、資格取得支援制度を設けています（受験料の会社負担、資格取得手当付与による受験意欲・成長意欲の向上） 【7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに】 - 本社屋上に太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーの活用を推進することで、CO₂排出量の削減及び環境負荷の低減に取り組んでいます。 - 昼休憩の際は事務所の不要な照明を消灯することで電力使用量の削減と CO₂排出量の削減に取り組んでいます。 【8. 働きがいも経済成長も】 - 働き方改革の推進に積極的に取り組み、従業員が仕事と生活を両立しながら、安心して長く働き続けられる職場環境づくりを目指しています。 （完全週休 2 日制、年次有給休暇取得促進、長時間労働の削減）	

SDGs の達成に向けた取組

		・ 社会情勢や物価上昇を踏まえて、賃金水準の引上げに取り組んでいます。適正な処遇の確保を通じて、働きがいの向上と人材の定着につながる職場づくりを推進しています。 【11. 住み続けられるまちづくりを】 ・ 各加盟団体の実施するボランティア清掃活動に定期的に参加しています。また、本社周辺道路の清掃や草刈りを定期的に朝の活動として行い、クリーンな地域環境づくりに取り組んでいます。 ・ 道路、舗装工事などの社会インフラ整備を通じて、安全で快適な地域の暮らしを支えています。また、道路の維持・補修や台風被害時の復旧対応など、地域の安全・安心の確保に取り組んでいます。 【12. つくる責任 つかう責任】 ・ 建設現場で発生したアスファルト廃材を適切に再資源化し、自社アスファルト合材工場においてリサイクル合材として有効活用しています。 限りある天然資源を有効に利用するとともに、廃棄物の削減やCO₂排出量の低減を図り、持続可能な社会インフラ整備に取り組んでいます。 ・ ペーパーレス化に取り組み、社内文書や工事関係書類の電子化を推進しています。電子データを用いることで、コピー用紙等の使用量を削減、印刷コストの削減、業務効率化に繋がっています。 【16. 平和と公正をすべての人に】 ・ 公正で公平な企業であるためにコンプライアンス意識の向上を図り、反社会的勢力への適切な体制を整備しております。 不当要求防止責任者を選任するとともに、暴力団追放沖縄県民会議の賛助会員として暴力団排除活動を推進し、地域社会から信頼される企業を目指しています。 普及に向けた予定している具体的な取組 自社サイトにロゴマークを添付して情報発信。	
--	--	---	--